



186

中学生向け

年組

(2023年11月6日付・下野新聞5面)

とちき発 あの商品の 秘ストーリー

③

提供する洋風居酒屋のような店だった。問いかけに対し野沢会長は「何でもうまいよ」と答えたものの「看板商品がないことに気づいた」。

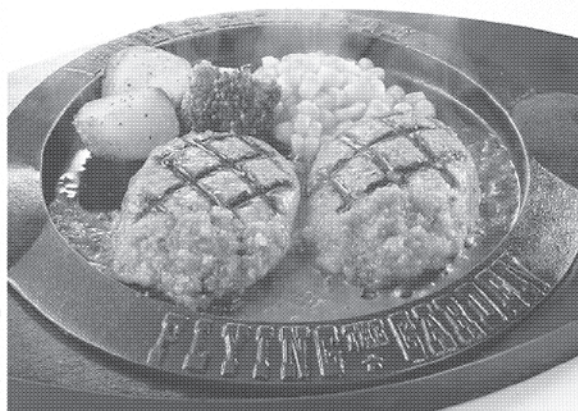
ハンバーグを目を付けたのは、日本人になじみ深い料理だから。以前からメニューにあったが、納得がいく一品ではなく販売を止めていた。自慢の一品にしようと、毎日20〜50gの肉を使って試し、当時は珍しかったし「シャツのボタンがは



関東5県に58店舗ある
フライングガーデンの
店舗＝小山市内

じけ飛んだことが3回あったと笑顔をみせる。肉100%ステーキ風ハンバーグが誕生した。売えるよう、生の食感が残り上げは好調で、「看板

小学生次男の一言で開発



フライングガーデンの看板商品「炸彈ハンバーグ」

現在も商品は毎週試作する。豪州などの牛肉を使い、年に数回は味付けやソースなどを変えている。大切にしているのは「安全、安心」。品質管理を徹底し、自社工場で製造するハンバーグは個包装して店舗に届け、調理する直前に開封する。卓史社長は「世の中で支持されている商品の中でも、圧倒的な存在にしたい。おいしくするための磨きをかけていく」と語った。(長島有紀)

企業メモ

フライングガーデン

商品になる」と確信した。会議では「激しすぎる」として、全員に反対された。『だから、この名前を決定した。そのくらいいる様子から着想を得て現ンパクトがなきゃだめ在の商品名に変更。社内だ』と言い切る。

爆弾ハンバーグ (フライングガーデン)

全員が反対した商品名

鉄板の上でシュージョーと焼ける俵型のハンバーグを、店員が目の前でカットして提供する「爆弾ハンバーグ」は来店客の半数以上が注文するフライングガーデン(小山市)の看板商品だ。

開発したのは創業者の野沢八千代(75)。きっかけは1988年、現社長で当時小学生だった次男卓史氏(44)の問いかけだった。「友達に聞かれたんだけど、お店で一番おいしい料理って何なの」と尋ねられた。

当時、県内外にあった3店舗は、150種類以上のフードとドリンクを

設問

【1】次の言葉は、本文中で使われている表現です。出来るだけ本文を見ずに、 部分のカタカナを漢字に直して正しく書いてみましょう。

〇〇とタズねられた。
ハンバーグはコハウソウして…
調理する直前にカイクウする。
おいしくするためのミガきをかける

【2】記事に「『シャツのボタンがはじけ飛んだことが3回あった』と笑顔をみせる」とあります。野沢会長のこの発言の意図として文脈から考えられることを、次から選びましょう。

(ア) ハンバーグの試作にあまりに力を込めた結果、勢い余ってシャツのボタンを飛ばしてしまったエピソードを話すことで、自社のハンバーグ作りのパワフルさをアピールしている。
(イ) ハンバーグの試作を繰り返し、そのたびに味見をするので太ってしまった経験を自虐的に話し、ユーモラスな雰囲気を出している。
(ウ) うまくいった試作品の味見をする度に、飛び上

がって喜んだためシャツのボタンを飛ばしてしまったという体験を語ることで、自社のハンバーグが飛び上がるほどおいしいということを潜在的に宣伝している。

(エ) シャツのボタンがはじけ飛ぶほど厚くなった胸板を誇ることで、牛肉の持つ筋力アップの効果を伝え、筋トレに興味のある人の集客を見込んでいる。

【3】この記事から分かる情報として正しいものには○を、間違っているものには×を書きましょう。

(ア) 爆弾ハンバーグが、生の食感が残る焼き具合で提供されるのは、肉のおいしさを存分に味わえるよう工夫されているからである。

(イ) 「何でもうまい店」は「看板商品のない店」とも言えることに気づいた現社長は、日本人になじみ深いハンバーグに目をつけ、看板商品の開発に乗り出した。

(ウ) 爆弾ハンバーグは約1年間、別の名前で商品提供されていたが、売り上げは好調であり、看板商品たり得ると現会長は判断した。

(エ) 「爆弾ハンバーグ」の商品名は、店名よりも有名にしたいという願いのもと、その形を由来として命名された。

(オ) 上三川町の工場で、徹底した品質管理のもと製造されたハンバーグは、一つ一つパッケージングされ、各店舗に配送されている。